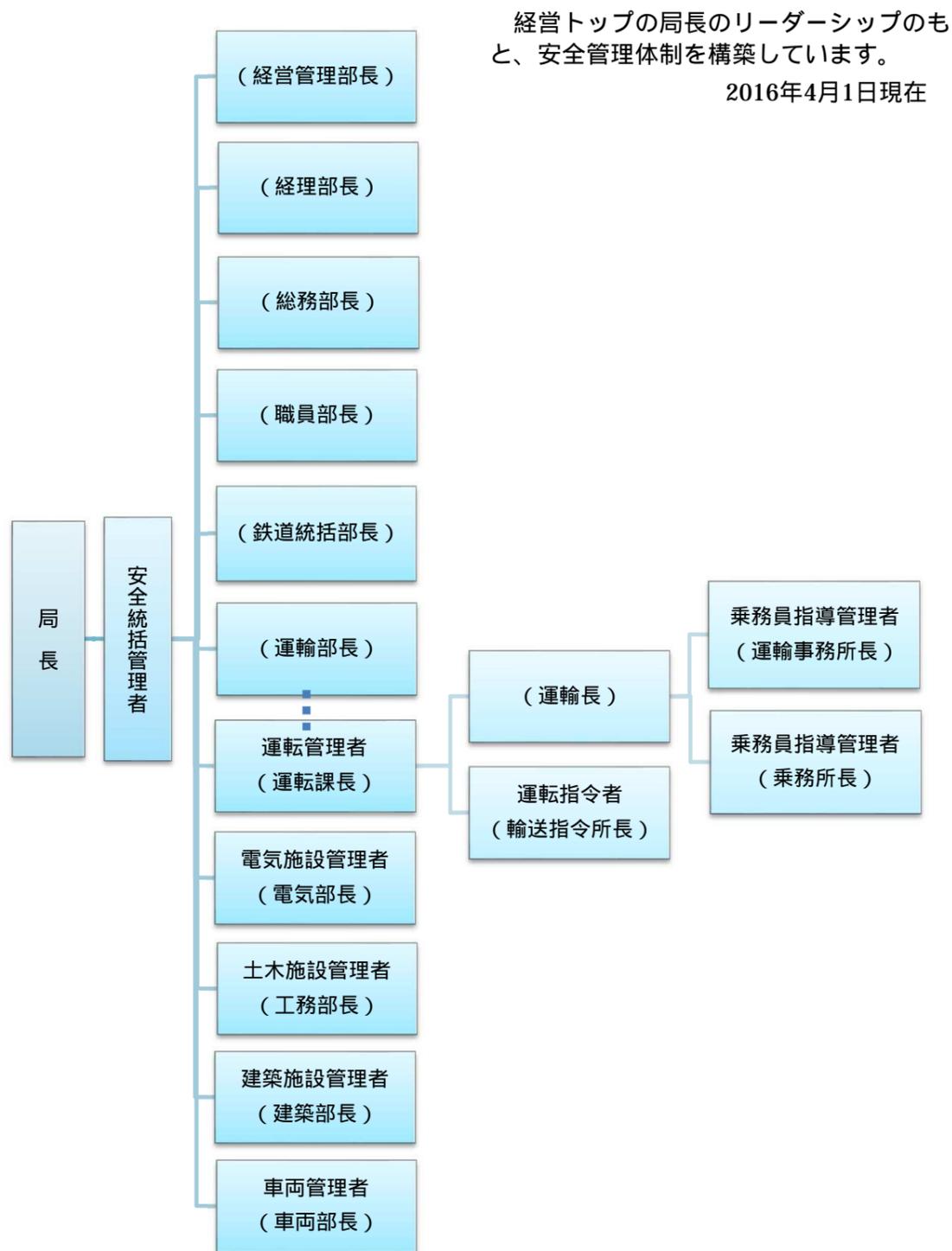


安全管理体制

安全の確保に係る体制 (安全管理体制)



● ... は、運輸部長が運輸管理者の業務を補助していることを示す

主な管理者とその責務

局長	・輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者(鉄道事業本部長)	・輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
鉄道統括部長	・内部監査及び輸送の安全の確保に必要な施策の推進に関する事項を統括する。
運輸部長	・安全統括管理者の指揮の下、運輸に関する事項を掌理し、運輸に関する事項について運輸管理者の業務を補助する。
運輸管理者・各施設管理者・車両管理者	・安全統括管理者の指揮の下、運輸、各施設及び車両に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	・運輸管理者の指揮の下、乗務員及び操縦員の資質の維持に関する事項を管理する。
経営管理部長	・輸送の安全の確保に必要な経営管理に関する事項を統括する。
経理部長	・輸送の安全の確保に必要な経理に関する事項を統括する。
総務部長	・輸送の安全の確保に必要な連絡調整及び広報等に関する事項を統括する。
職員部長	・輸送の安全の確保に必要な要員に関する事項を統括する。

安全管理体制

安全管理の方法

輸送の安全の確保に関する計画を策定し（Plan）、これを着実に実行し（Do）、その進捗状況の評価を行い（Check）、必要な改善を行う（Act）ことを繰り返し、安全管理体制の継続的な改善を行うことによって、各種の安全施策を進めています。

評価（Check）には、当局による内部監査によるものの他に、国土交通省による運輸安全マネジメント評価があります。



内部監査

交通局では、毎年、安全管理体制に関する内部監査を実施しています。

内部監査は安全管理体制が適切に機能していることを確認し、これにより交通局の輸送の安全が適切に確保できているかを客観的に確認することを目的に実施しています。

2015年度重点監査事項

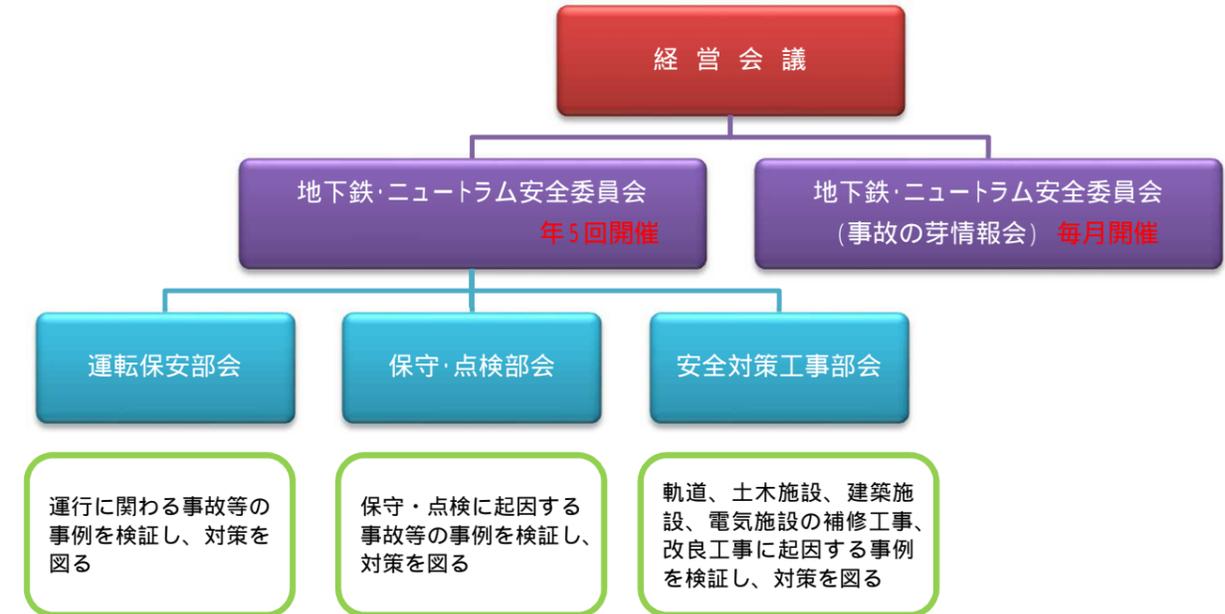
- 輸送の安全の確保に関する規程等の遵守状況の確認
- 2014年度運輸安全内部監査フォローアップ事項の取組み状況の確認
- 自主監査活動の有効性の確認



内部監査ヒアリング状況

安全委員会と事故の芽情報

地下鉄・ニュートラム安全委員会では、安全統括管理者のもと安全管理体制の確立を図り、地下鉄・ニュートラムの運行について一層の安全を推進することを目的とし、安全管理に関するさまざまな検討を行ないます。委員会では顕在化していない事故の芽（ヒヤリ・ハット、キガカリ）情報を各部門から報告させ、その内容を審議していますが、あわせて情報共有を目的に、2012年7月から「事故の芽情報会」を設置していますが、あわせて毎月開催しています。



職員の経営参加意識の醸成（事故の芽処理の2週間ルール）

現場から寄せられる「事故の芽情報」は、放置すれば事故になる大切な情報であり、小さなうちに摘み取り事故の発生を防ぐことが必要です。現場第一線の職員から寄せられた意見や気付き、ヒヤリハット体験は、各事業所を通して、本局管理部門に集約し、対策（設備改善やルールの見直し）を講じます。情報提供者へは2週間以内に、その対応等を回答することになっています。

また、これらの情報と対策は、毎月開催する地下鉄・ニュートラム安全委員会（事故の芽情報会）で各部門に報告し、情報を共有します。

交通局では、職員が、いつもと少し様子が違うということに気付くことが大切であると認識しており、この一連の取扱いが職員の経営参加意識の醸成に結びつくものと考えています。



安全管理体制

ヒヤリハット対策費の活用による「気づき」の改善例

職員の「気づき」「対策案」「安全性向上効果」を「ヒヤリハットエントリーシート」において明確にし、安全統括管理者及び関係部長による審議後、速やかに対応（工事含む対策）できるようにヒヤリハット対策費を設け、安全を訴求し早期の改善を図っています。

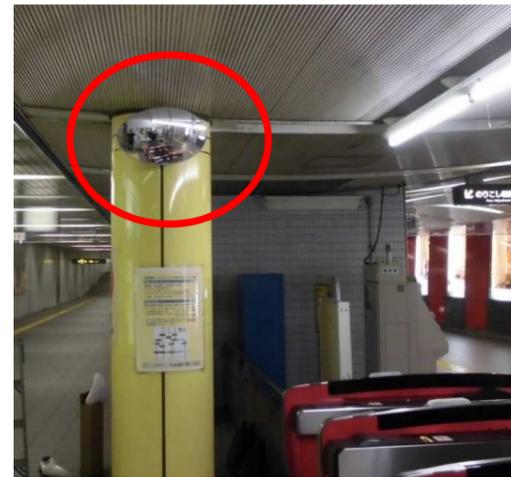
ここでは、お客さまへの安全に関する2件の「気づき」と「対策」の実績を紹介します。

各駅におけるお客さま同士の衝突防止対策 気づきの発信者：駅職員

通路交差部分等で死角になる場所があり、当該場所を通行中お客さま同士で衝突する危険性が考えられるため、カーブミラーを設置することによって、お客さま同士が動向を目視出来たため、衝突を回避する効果が得られました。



改善前



改善後

その他設置例



駅出入口 高い段差箇所の転倒防止対策 気づきの発信者：駅職員

出入口に高い段差があり、年配のお客さまや足の不自由なお客さまが、転倒し怪我をされる危険性があるため、手摺りを設置する事により、段差を容易に通ることができる効果が得られました。

改善前



改善後



安全管理体制

安全確保に関する各種取組

4月	地下鉄工事安全週間
5月	春の全国交通安全運動
6月	触車事故防止週間 感電事故防止週間
7月	全国安全週間 安全運転推進運動 技術三部合同情報伝達訓練 建築安全大会
8月	サービス向上運動
9月	秋の全国交通安全運動 触車事故防止週間
10月	全国労働衛生週間 地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間
11月	総合訓練（避難誘導編） 車両火災予防運動 車内案内放送コンテスト
12月	年末年始の輸送等に関する安全総点検 安全講演会 （工務部）業務研究発表会 電気技能競技会 （電気部）災害を想定した訓練 建築安全大会 安全に関する取組み発表会
1月	電気工事における安全大会 運転技能競技会 年末年始の輸送等に関する安全総点検
2月	電気部安全報告会
3月	施設・車両復旧に関わる鉄道事業本部内連携訓練 車両火災予防運動 （電気・機械）業務研究発表会 触車事故防止週間

黒文字・・・国が発信する安全に関する取組み
青文字・・・全局的に実施する取組み
赤文字・・・各部が実施する取組み

安全に関する 取組み発表会

2015年12月1日

予選会を勝ち上がった各部門の代表者による取組みの発表があり、他の所属の業務や取組みを知るなどの共有化を図るとともに、最も優秀であった所属に対して表彰しました。
また国や他鉄道事業者にも審査員として多数ご参加いただくとともに、東京地下鉄株式会社の社員の方から特別発表を行っていただきました。



電気部 安全報告会 2016年2月19日

安全に関する取組み（ヒューマンエラーの防止、事故・トラブルの再発や未然防止のための取組み、不安全要素への対応など）を各事業所が報告することにより、部全体の安全に対する気づきや意識の向上を目指しています。



車両部 車軸不回転復旧訓練

2015年 5～6月、10～11月
7検車場で実施



車軸不回転時に
取り付ける搬送台車

止水鉄扉取扱い・止水堰取扱い訓練

2015年 5月11～14日 緑木検車場
2015年 5月21日 大日検車場



止水堰
取扱い

建築部 建築安全大会 2015年7月15日、12月18日

請負工事及び委託作業における災害や事故等の未然防止のため、受注事業者等とともに安全への取組みをおこなっています。



安全管理体制

総合訓練

1993年のニュートラム住之江公園車止め衝突事故を教訓とし、不測の事態に迅速に対応できる体制を確立するため、消防及び警察等の協力を得て、異常時におけるお客さまの安全を守ることを目的に訓練を実施しています。

避難誘導編（2015年11月7日〔11月6日終電後〕）

<想定> 千日前線上新深江～今里間走行中に大地震が発生し、第3次地震警報を受信し、直ちに急停車の処置を取り駅間に停車した。まもなく広域停電が発生したが、大容量蓄電池の使用で運行を再開したが、余震により今里駅通常停止位置の手前で停止した。そのため、駅職員が可動式ホーム柵と車両扉を緊急開扉し、警察・消防と協力してお客さまを駅外に避難誘導した。



施設・車両復旧に関わる鉄道事業本部内連携訓練（2016年3月17日）

交通局では事故・災害発生時に現場事業所と本局がスムーズな情報連携を図ることによって、より迅速で確かな事故・災害復旧を可能とすることを目的として『本局対策本部』のシステムを導入しました。

このシステムと各種情報連携ツールにより、事故・災害発生時を想定した現場事業所と本局の間の報告・判断・指示を行う連携訓練を実施しました。

<想定> 中央線を経由して千日前線に回送していた4両編成の最後尾車両の後部台車が脱線した。（平成25年12月に発生した千日前線入換車両脱線事故と同様の状況）



地下街合同訓練

梅田・難波・天王寺駅では、駅をはじめ、駅ナカ店舗であるekimoも立地しているほか、地下街も隣接していることから、大型地震などの災害が発生すれば、各管理者の連携、指揮のもと各事業者の適切な対応が必要です。

そのため、駅職員や地下街の社員に加え、ekimoや地下街の店舗の従業員を交えた、お客さまの避難活動や消火活動等の訓練を実施しました。

東梅田駅（ホワイティうめだ）	2015年7月11日（7月10日終電後）、2016年3月12日
R2天王寺駅（あべちか）	2015年7月18日（7月17日終電後）、2016年3月5日
R1難波駅（NAMBAなんなん）	2015年7月25日（7月24日終電後）、2015年11月14日



新大阪駅における三事業者合同避難誘導訓練

（2015年11月28日〔11月27日終電後〕）

大型地震が発生した場合、地下鉄だけでなく他の鉄道事業者も運行が停止し、多くのお客さまが駅構内にやむを得ず滞留される”一時滞留者“が想定されます。その方々を迅速・的確に避難誘導するとともに、鉄道ターミナルを形成しているJR東海・JR西日本と協力し、広域避難所へ移動されるまでの間、一時滞留者への情報提供や非常用備蓄品を配布する避難誘導訓練を実施しました。



安全管理体制

安全講演会

2015年12月に、安全講演会を開催しました。

外部有識者を講演講師として招き、他社の安全の取組み等の紹介も含め、お客さま目線に基づいた組織マネジメント手法や人材育成等の安全管理の重要性について意識の向上を図りました。

2015年12月16日

講師 慶應義塾大学 理工学部管理工学科 教授 岡田 有策 氏

テーマ 組織とヒューマンエラー・マネジメントについて
(現場中心型のヒューマンエラー対応活動へ)



車内案内放送コンテスト 2015年11月5日

基本放送や異常時の放送等、車内案内をテーマに日頃培った技術を披露するコンテストを開催するなど、常にお客さまに丁寧で正確な情報を提供できるよう日々研さんを積み重ねています。



運転技能競技会 2016年1月27日

基本動作の重要性を再認識させ、日常業務における運転技術の技量及び知識の向上を目的とした競技会を開催しています。乗務所ごとに実車において運転操作及び基本動作の試験による選抜を行い、成績上位者で運転知識を競います。技能と知識を兼ね備えた優良乗務員を表彰することで、士気の高揚及び運転技能の向上を目指します。



安全管理体制

電気部 電気技能競技会

日頃の保守業務の研さん内容を発表し、お互いの技能を評価させることによって全体としての質的向上を目的とした技能競技会を開催しています。

2015年12月7日（強電の部）・・・レールボンド取付作業

2015年12月8日（弱電の部）・・・列車無線電話装置・誘導線事故復旧

強電の部



弱電の部



風通しの良い職場づくりに向けて

（職員と経営層とのコミュニケーション）

経営管理層は、監査・各種研修・一斉点検・ミーティング時等に、現場事業所に出向き積極的に意見交換を行うなど、現場第一線の職員の生の声を聞き、コミュニケーションを深め、風通しの良い職場づくりに努めています。

局長の現場でのコミュニケーション



自主監査での訓示及び意見交換



接客発表会での総評

工務部 保線KYT大会

2016年2月15日

保線作業における労災事故や列車運行阻害事故を未然に防止できるよう日頃から危険予知活動（KY）に取り組んでいます。この危険予知活動（KY）を競技形式とすることによって、さらなる安全意識の向上に繋げることを目的として、保線KYT大会を開催しています。



安全統括管理者の現場でのコミュニケーション

乗務所での巡視



巡視後の意見交換



駅での意見交換